

a journal



NAGOYAKINEMA
NEU

ナゴヤキネマ・
ノイ

2025
月号

〒464-0850

名古屋市千種区今池 1-6-13
今池スタービル 2F

Tel.052-734-7467

https://nk-neu.com

2月の定休日
火曜日

2/4・18・25

毎月発行

RESERVATION

■各作品の10日前から上映1時間前までは公式サイトからプリペイドで席のご予約ができます。

■現金でのご購入、特別鑑賞券、ご招待券をご使用の方は、10日前から当日までの窓口受付(座席指定)をご利用ください。

PLATFORM



公式サイト 公式 Facebook 公式 X 公式 Instagram
@nkn_2024 @nkn_2024

上映スケジュール表は2面をご覧ください

ACCESS



ナゴヤキネマ・ノイ

- ▶地下鉄今池駅⑨・⑩番出口より徒歩3分
- ▶今池スタービル2F(契約駐車場なし)

12.21(土)～ 『どうすればよかったか?』

監督: 藤野知明 (2024年 101分)



1.25(土)～2.14(金) 『オン・ザ・ロード～不屈の男、金大中～』

監督: ミン・ファンギ (2024年 129分)



1.25(土)～2.7(金) 『ニッツ・アイランド 非人間のレポート』

監督: エキエム・バルビエ (2023年 98分)



2.1(土)～14(金) 『ヨルゴス・ランティモス特集』《3作品/入替》



- ① キネッタ
(ヨルゴス・ランティモス 2005年 98分)
- ② アッテンバーグ
(アティナ・ラヒル・ツァンガリ 2010年 97分)
- ③ アルプス
(ヨルゴス・ランティモス 2010年 97分)

2.8(土)～14(金) 『ピアニストを待ちながら』

監督: 七里 圭 (2024年 61分)

2/8(土) 舞台挨拶: 七里 圭監督



2.15(土)～ 『鹿の国』

監督: 弘 理子 プロデューサー: 北村皆雄 (2025年 98分)

2/15(土) 舞台挨拶: 弘 理子監督



2.15(土)～ 『ブラックバード、ブラックベリー、私は私。』

監督: エレネ・ナヴェリアニ (2023年 110分)



2.15(土)～ 『ヴィジョン・オブ・マフマルバフ』 マフマルバフ・ファミリー特集 《8作品/入替》



『ヴィジョン・オブ・マフマルバフ(新作)』

- ① 苦悩のリスト (ハナ・マフマルバフ 2023年 67分)
- ② 子どもたちはもう遊ばない (モフセン・マフマルバフ 2024年 62分)

『マフマルバフ・ファミリー特集』

- ③ ワンス・アポン・ア・タイム、シネマ (モフセン・マフマルバフ 1992年 92分)
- ④ サラーム・シネマ (モフセン・マフマルバフ 1985年 82分)
- ⑤ タイム・オブ・ラブ (モフセン・マフマルバフ 1991年 70分)
- ⑥ パンと植木鉢 (モフセン・マフマルバフ 1996年 78分)
- ⑦ 私が女になった日 (マルズィエ・メシュキニ 2000年 78分)
- ⑧ 独裁者と小さな孫 (モフセン・マフマルバフ 2014年 105分)

2月上映スケジュール表

2/4・18・25(火)は休館です。
2/11(火・祝)は開館いたします。

2/1(土)～7(金)

	2/1(土)	2(日)	3(月)	5(水)	6(木)	7(金)
11:00	『オン・ザ・ロード ～不屈の男、金大中～』					
13:30	『ニッツ・アイランド 非人間のレポート』					
15:30	『どうすればよかったか?』 2/1(土)・2(日)は9:00も上映あり。					
17:30	①『キネッタ』	③『アルプス』	②『アッテンバーグ』	①『キネッタ』	③『アルプス』	②『アッテンバーグ』
19:30	②『アッテンバーグ』	①『キネッタ』	③『アルプス』	②『アッテンバーグ』	①『キネッタ』	③『アルプス』

2/8(土)～14(金)

	2/8(土)	9(日)	10(月)	11(火)	12(水)	13(木)	14(金)
11:00	『どうすればよかったか?』 2/8(土)・9(日)・11(火)は9:00も上映あり。						
13:00	『ピアニストを待ちながら』						
14:40	①『キネッタ』	③『アルプス』	②『アッテンバーグ』	①『キネッタ』	③『アルプス』	②『アッテンバーグ』	①『キネッタ』
16:40	②『アッテンバーグ』	①『キネッタ』	③『アルプス』	②『アッテンバーグ』	①『キネッタ』	③『アルプス』	②『アッテンバーグ』
18:40	『オン・ザ・ロード ～不屈の男、金大中～』						

2/15(土)～21(金)

	2/15(土)	16(日)	17(月)	19(水)	20(木)	21(金)
11:00	『鹿の国』					
13:15	『ブラックバード、ブラックベリー、私は私。』					
15:20	『どうすればよかったか?』					
17:15	ハナ・マフマルバフ『苦悩のリスト』					
18:40	モフセン・マフマルバフ『子どもたちはもう遊ばない』					
20:00	⑥『パンと植木鉢』	③『ワンス・アポン』	⑤『タイム・オブ』	④『サラーム』	⑦『私が女に』	⑧『独裁者と』

2/22(土)～28(金)

	2/22(土)	23(日)	24(月)	26(水)	27(木)	28(金)
11:00	『ブラックバード、ブラックベリー、私は私。』					
13:05	『鹿の国』					
15:00	『どうすればよかったか?』					
17:00	モフセン・マフマルバフ『子どもたちはもう遊ばない』					
18:20	ハナ・マフマルバフ『苦悩のリスト』					
19:40	④『サラーム』	⑤『タイム・オブ』	⑧『独裁者と』	⑦『私が女に』	③『ワンス・アポン』	⑥『パンと植木鉢』

ご入場料金・入替制

一般 1800円 大学生・会員 1400円 高校生以下 1000円 シニア(60歳以上) 1300円
障がい者・会員(シニア・学生) 1100円 ペア割(2名) 2800円

○会員サービスディ: 木曜日 会員・障がい者 1000円・会員1名とのペア(2名) 2000円
○ファーストディ 一般 1200円 会員・障がい者 1000円

会員募集

お申込日から1年有効で2000円。
会員特典は当日料金の割引のみになります。
受付は劇場窓口にてお願いいたします。

『どうすればよかったか?』

共に医師で研究者の両親とふたりの姉弟。医学部進学した姉がある日突然、支離滅裂に叫びだした。統合失調症を疑われるが、弟の意思に反して両親は精神科の受診を遠ざけ、やがて家の鍵に鎖と南京錠がかけられた……姉の発症から18年後、映像制作を学んだ弟は帰省の度に家族との対話を始め、その後20年をカメラに記録し続ける。歪んだ家族像に向き合う容赦のない時間も、二度と出会えないようにいとおい瞬間も。家族を描いた最も優れたひとつの、破格の、必見ドキュメンタリーだ。(101分)

『オン・ザ・ロード～不屈の男、金大中』

日本の植民地時代に生まれ、海運会社を経営した後、政治家を志し、理論家として名を馳せるも、軍事政権下での抑圧、日本で起きた拉致事件、帰国後の軟禁、投獄、死刑判決まで受けながらも、民主化実現のために闘い続け、後に大統領にもなった韓国の政治家金大中(キム・デジュン)の生涯を描くドキュメンタリー映画。個人史であると同時に、自らの力で民主主義を手にし、それを手放すまいとする韓国の近現代史そのものが同時に示される。(129分)

『ニッツ・アイランド 非人間のレポート』

オンライン空間のとある“島”を舞台に、襲いくるゾンビを倒し続けるサバイバルゲーム『DayZ(デイジー)』。本作はその殺伐としたゲーム空間に963時間滞在し、コミュニティを作り上げている人々に取材した異色のドキュメンタリーだ。アバターの向こう側にいるプレイヤーのリアルを感じつつ、混沌としたヴァーチャルな世界での、文字通り現実離れたインタビューが続き、傍観者でありながらゲーム実況とも異なる奇妙な没入感を体感する。(98分)

ヨルゴス・ランティモス特集 《3作品/入替》

『籠の中の乙女』『女王陛下のお気に入り』『哀れるものたち』『憐みの3章』など豪華でビジュアルな傑作でヨーロッパのみならず世界を唸らせるギリシアの鬼才ヨルゴス・ランティモスのフィルモグラフィ3作品を特集。海辺のオフ・シーズンの町キネタで、過去の連続殺人事件を再現し撮影する3人の者たちを描いた野心的な長編デビュー作『キネッタ』(98分)。余命わずかな建築家の娘マリナが、たった一人の肉親を失いかける孤独の中、自身が未体験の性や愛を見出すとする奇妙な試みを描き出す透徹の傑作であり、ランティモスは製作と出演(エンジニア役)で参加した『アッテンバーグ』(97分)。故人を演じて、愛する人を失った人々の喪失感を癒すサービスを提供する謎の集団を描く、ランティモスワールド全開の異形の未公開作『アルプス』(94分)。

『ピアニストを待ちながら』

『のきな姉さん』『サロメの娘』など、映画の新たな地平を拡張し続ける七里圭監督最新作。

深夜の図書館に閉じ込められてしまった男女五人。ガラスの向こうの闇は明けず、なぜか外には出られない。理由なく幽閉された彼らは、来るべきピアニストを待ちながら、芝居の稽古を始める。

井之脇海、木竜麻生、大友一生、澁谷麻美、斎藤陽一郎のアンサンブルを楽しみつつ、なにかと話題の世界的建築家・隈研吾が手掛けた村上春樹ライブラリーの空間を堪能してください。(61分)

『鹿の国』

信州、諏訪。御柱祭や諏訪湖の御神渡りなどで知られ、全国に1万社ある諏訪神社の総本社である諏訪大社で、鹿を祀る独自の信仰が続いてきた。古い神・ミシャグジの存在もミステリアスだ。このドキュメンタリーでは、600年前に途絶えた謎の「御室神事」を再現する。それは凍てつく冬、3ヵ月間にわたって行われる、死と再生の儀式だ。ナレーションは、能登麻美子といとうせいこうが担当。ごく身近な場所にある異文化に触れる絶好の機会。(98分)



『ブラックバード、ブラックベリー、私は私。』

溪谷のせせらぎが響くジョージアの村で両親と兄を失い、つましい雑貨店で日用品を商うエテロ、48歳。今、ひとり暮らしを密かに愉んでいる彼女は村の男たちの目をひかず、年長の女たちのお節みな嘸の的にになっている。ある日、谷のベリーを摘みにきたエテロは川べりでクロウタドリに見とれて足を踏み外す…。女性の自由とその行方を、素朴で愛らしい生活の中から描きだし、数々の映画祭でも絶賛される傑作。(110分)



『ヴィジョン・オブ・マフマルバフ』 公開記念マフマルバフ・ファミリー特集 《8作品・入替》

『サイクリスト』『カンダハール』など、20世紀後半のイラン映画を牽引していった巨匠モフセン・マフマルバフ監督。『ハナのアフガンノート』などで評価の高い娘のハナ・マフマルバフ監督とともに作った新作2本と特集上映を！

2021年の米軍のアフガニスタン撤退に伴うタリバンの再侵攻を前に、アーティストや映画製作者救出を敢行しようとする『苦悩のリスト』(67分)は、アフガン版「シンドラーの

next arts 通信

第五福竜丸展示館

ノーベル平和賞を受賞した日本被団協(日本原水爆被害者団体協議会)は、原爆が投下されてから80年となる今年、被爆者の立場から核兵器の廃絶や被爆者への支援を訴え続けてきた運動を、国民全体に広げていくことを目指している。

1954年3月1日にマーシャル諸島ビキニ環礁でアメリカが行った水爆実験で、日本のマグロ漁船「第五福竜丸」の乗組員23人が被曝したことを契機に、国内で原水爆禁止運動が高まりを見せつけた。1956年この機運を背景に結成されたのが、日本被団協である。

戦後80年の年始に思い立て、「東京都立第五福竜丸展示館」を見学した。東京水産大学の練習船として運用後、廃船処分で夢の島での放置が知られると、保存運動が活発化、76年には夢の島公園に展示館が開設されて、船体の展示・公開に至ったのだ。

実物そのものの迫力、それを取り囲むように展示されている資料は、多くの学びと啓発をもたらしている。なかでも元乗組員の大石又七さん(1934-2021)が製作した第五福竜丸の模型と、インタビュー映像が印象深い。船の保存を知った当時には、正直なところ止めて欲しかったと語る大石さんは、被爆について長年沈黙を貫いていたが、83年からは証言活動を継続し、核廃絶を訴えた。今こそ次世代と共に、大石さんや被団協の意志を受け止めていくべきだ。

【トトチ】

ナニやっぺんだか! (6)

去年の12月に第7次エネルギー基本計画(将来のエネルギー政策の方向性を示す)と地球温暖化対策計画の原案が発表され、大まかにいえば再エネ4割、火力4割、原子力2割でやってゆく。でも、これってあまりにもお粗末でアングリしてしまいました。

アングリその1は、地震大国のこの国で、強烈な原発回帰です。可能な限り低減するとしていたのに、最大限活用と、手のひら返しです。福島原発事故で「原子力緊急事態宣言」はいまだに解除されず、避難している人は4万以上なのに。

アングリその2は、原発は脱炭素電源だって! んな訳ない、発電した後は使用済み燃料となり、数万年の間、環境から隔離しなくてはならないので、その設備の建設、維持管理にCO2は排出されます。それに原発で大規模集中型電源でバックアップに火力発電2〜3基必要。だから原発がある限り脱炭素燃料はできない。

アングリその3、国際的な信用力低下のごまかし。IPCC(気候変動に関する政府間パネル)は気温上昇を1.5度以内にするためにはCO2を「2035年60%削減(2019年比)が必要」としています。しかし、同じ60%にするための、2019年比を2013年比に変えちゃっています。国際的基準の2019年比としたら49%の削減だけに。これだけでも、温暖化対策はやる気がない。今年の夏もまたさらに酷暑になる、ナニやっぺんだか。

(しょう)

リスト」とも評される。『子どもたちはもう遊ばない』(62分)は、エルサレムを舞台にパレスチナ問題の深層を探るドキュメンタリー。相互理解の難しさと解決への一縷の望みを見出そうとするドキュメンタリー。

旧作特集では、イラン映画史にオマージュを捧げる『ワンス・アポン・ア・タイム、シネマ』(92分)、初期最高傑作の誉れ高い『バンと植木鉢』(78分)など6作品を厳選。

パット、みて、ポン!

最近、大入り袋をみかける機会が少なくなった。動員数が減って大入りにならなくなったというところもあるかもしれないが、縁起物?というところで、かつては公演の打ち上げで配られていた。筆者は大入り袋にギョラを入れて渡していた。そのギョラも現金で見ることが少なくなった。給料と同じく口座振込で行われる。その方が支払いの記録が残って確かだし、なにより紛失がない。というも、私の知人でギョラを打ち上げの帰りに失くしてしまった者が二名いる。可哀そうではあるが、なんともし難い。筆者の場合、公演の制作をするため、売上と釣銭を現金で持ち歩くことが多い。銀行ATMが店舗閉店後も稼働しているので、まずはそこに預けるのだが、中にはそれが果たせない時もあった。ある企画で、三泊ほど山間部にて過ごすイベントなのだが、その間の金銭をずっと持ち歩き、就寝時には紛失への警戒から金庫を枕にしていたことがある。熟睡は無理。その上、7時に起床し、9時には受付開始、会場は地域内に点在していて、順番に駆け回る。毎夜のように打ち上げて(拙者の意向でもあるが、飲んでも酔いを感じない)、就寝は金勘定してからのので0時を越える。四六時中、肌身離さずお金を持ち続ける。タフだった。あんな経験は一度くらいにしておきたいと思ったが、結局五年続いた。もはや怖いものはない。では、キャッシュレスが良いかというと、そうは思っていない。現金は手持ち金の損失だが、オンライン等は全財産を失う可能性がある。どっちが良いのだから。

(P)

ウニタ書店情報 (052-731-1380)

1990年代以降、長い経済低迷に陥った日本社会。そこからの脱却と称して、行政・財政など各分野での規制緩和や公共サービスの削減といった新自由主義的な政策が強力に押し進められてきた。それは戦後経済を支えてきた中流層を解体し、富裕層と貧困層の二極化という状況を生み出してきた。

そして、そうした状況を支えようとする思想として持ち出されてきたのが、「自己責任」論だった。だが、それは本当の意味での「責任」なのだろうか。その疑問に向き合い、新たな責任概念の構築を目指したのが、戸谷洋志氏の「生きることは頼ること」(講談社現代新書)である。その中で、「強い責任」と「弱い責任」という概念を提示している。前者は、他者に頼らず自分一人で責任を果たす「強い」主体を前提にし、それが果たせない他者を排除し、人々を分断し、孤立させる。その典型が「自己責任」論である、としている。それに対して後者は、別の誰かを頼り、引き継ぐことによって、「弱い主体」が責任を全うでき、そこに連帯や信頼が生み出されると主張する。

ハンス・ヨナス、ジュディス・バトラーらの哲学者の言説を手がかりに展開していて、決して平易とは言えないが、分断が拡がり続ける現代社会を変えていくための思索のひとつであることは確かである。

いなかのじけん

ていちんこ

隣町の人は誰も知らない、ウチの地区だけの12月に行われる祭りである。帝鎮講と書く、らしい。こんな漢字なものだから、まことしやかな言い伝えが残っている。その昔、京の帝(みかど)がお逃げなされし候折、おかくまり候しところ、女子は口さがなき候故、男衆のみでお世話し候也、とかなんとか。ホンマかいな、そりゃ壬申の乱ですかい。確かにここには鎌倉街道が通っていた跡があるらしいですが、こまではお逃げあそばされなかつたんとちゃうか。

とにかくこのお祭りは徹頭徹尾、男衆だけでとり行われる。お祭り当日、当番にあたった家の庭先に、村中の老若男が集い藁縄をなう。藁で舟形の器を各自がこさえる。藁草履も作つたらしい、これは何のためかは知らねども。藁の器は、祭りの現場である「お山(やま)」で飯を炊き、握り飯を作りそれを受け取るため、縄は皆が入れるだけの結果を張るためだ。竹筒に甘酒を入れ、「きつねもたぬきもていちんこ」と、へそから力の抜けてゆく掛け声とともに「お山」に分け入ってゆく。目指すはご神木だ。

小川を渡るときじい様が櫓で水をかけみそぎをする。この時は小声で掛け声だ。「きつねもたぬきもていちんこ」と、何やら奇妙な木があって、これがご神木だ。焚火して、飯を炊き、おにぎり食って、子供たちはうづらうづら、大人たちは酒を飲み、そして帰る。「今年のていちんこは盛り上がったなあ。」何のこっちゃ。自分たちが何をやっているのか本当の所は誰も知らない。天下の奇祭と言われる所以だ。今も細々ながら続いている。縄をなう。くつ、ちつともうまくいかない。

**ナゴヤ
キネマ・
ノイ**

協力店

NAGOYA
KINEMA
NEU

みその皮膚科医院
Misono Dermatology Clinic
【院内処方 / 保険診療】

診療時間
午前 10時～13時・午後 15時～20時
毎週土曜・日曜・祝日休診

地下鉄伏見駅10番出口より徒歩2分

052-232-2214
http://www.misonohifu.com/

**BAR
パルク**

(円頓寺 Les piliers 併設)
演劇、映画、アート、音楽をつまみに

名古屋市中区那古野一丁目18-2
090-1620-4591 (加藤)

国際センター駅②出口から徒歩5分
丸の内駅⑧出口から徒歩8分

不定休
詳細はツイッター@perkypat1962

GOOD BOOZE CHEAP FOODS & HIP MUSIC

Tokuza は
朝までやってる
呑み屋である。

052-733-3709
年中無休 pm6:00～am5:00
キネマ・ノイより北、広小路通へ
抜ける手前の青いビル 2F

open house
Analog Recordと
Restaurant Bar

052-753-4300
年中無休 pm6:00～am1:00
キネマ・ノイより東、環状線に
抜けた角、中屋パン地下 1F

**JAZZ
MATILDA**
DRINK & FOOD

●丸栄 入江町通
●かに本家 三蔵通
●プリンセス 白川通
●ガーデンホテル

JAZZ MATILDA
(グランビル5F)

●気軽に飲める小さなお店です
●お一人様大歓迎。●日・月曜定休 ●席料 ¥500
●オーダー ¥300～ ●営業時間 19:00～24:00
名古屋市中区栄三丁目9番22号グランビル5F
☎052-263-6272

**パンクをしたら
DAISY**

052-228-0977

急ぎの荷物も当日お届け！
自転車便・自転車出張修理
デイジーメッセンジャー
名古屋市中区新栄 2-2-19

Hair Salon VARIÉTÉ
WEB: http://variete.hp4u.jp

ヘアサロン バリエテ

●営業時間
平日 11:00～21:00 土日祝 10:00～19:00
●定休日
月曜・第3月火曜連休
千種区池下 1-6-20 ☎751-7774
(チサンマンション池下203号) 1Fに「トゥリエール」のあるビル

感じる、考えるひとのための本屋

bookshop & gallery
ON READING

www.onreading.jp
on_reading

地下鉄龜山公園駅 2番出口より徒歩1分

女性専門 からだほぐしと足つぼ

みずたま

みかげさまで17周年
本山駅6番出口すぐ
10:00-20:00 火曜・第1/3水曜定休
052-781-8239

アリガト

髪切って、顔とす。

7-654-0274
〒464-0825 名古屋市中区栄3-18-25
052-761-7723

SHIMAUMA BOOKS
シマウマ書房

ナゴヤキネマ・ノイから東へ
徒歩5分。古本屋です。

名古屋市中千種区今池 5-14-3
11:00～18:00
定休日 火水
www.shimauma-books.com

アンティーク・リサイクル着物&カフェ

蘭丸

ウール400円～、正絹小紋2500円～
名古屋帯2500円～、半幅帯300円～
小物やオリジナル商品もございます。
キネマ・ノイより、南へ徒歩2分
052-735-6053
p.m.1:00～7:00 / 火曜・水曜定休
名古屋市中千種区今池3-2-9 マビルディング1階

骨董・古書・美術品

こもれび

鑑定・買取

昭和区 桜山
☎052-853-1961

静寂の珈琲店
読書珈琲リチル

地下鉄今池駅徒歩1分

愛知県産
農業・化学肥料ゼロ栽培

野菜セットから

まずは、お試し野菜セットから
お申込みはホームページ / お電話で
tel 052-851-7200

くらしを耕す会 検索

天然酵母パンとお野菜中心のお昼ごはん

**鞠奴パン
食堂**

●営業日 / 木・全曜日 am 11時半～pm 4時
緑区鳴海町絆の木31-2 TEL080(4301)3102
鍼灸「ハリのむしろ」も併設

中国伝統鍼灸・冷えとり健康法

**帰来堂
鍼灸療院**

地下鉄池下駅1番出口すぐ
9:30-18:30 (最終受付) 不定休
052-752-7817 (予約制) kiraido.com
千種区池下 1-11-7 MEBビル202

おもしろ 楽し
三味線教室

無料体験しませんか

清元美哉 廣
090-6389-7795
otanesan3@gmail.com
桜山駅近く

星屑珈琲

群れない魂の止まり木

静かな夜型喫茶

ナゴヤキネマ・ノイから168歩

本と酒
ANZAI COVERDOCK
安西コブド

19時～27時
不定休

オーストラリアの人形劇団テラピン・バベット・シアターと
愛知県芸術劇場の国際共同制作作品

Goldfish
ゴールドフィッシュ

金魚と海とわたしたち

2025年
2月9日(日)14:00・11日(火・祝)11:00/14:00
愛知県芸術劇場小ホール
お問合せ 愛知県芸術劇場 052-211-7552 Email: contact@aaf.or.jp

印刷のことなら何でもご相談ください。

http://mokumoku.asia

名古屋瑞穂区 tel 052-852-7611

マース古田誕生日記念
短歌一武道会

短歌を学び、作って発表しよう。
そして、みんなで大賞を決定。
吞んで食べて楽しむもよし!

初心者大歓迎!
短歌の基本のキのレクチャーもあり!

お題 **マース古田**

野口あや子 / 荻原裕幸
大竹敏之 / 森田裕

2025
2月14日 19:00start!!
金 予約 ¥2,000
当日 ¥2,300

Tokuza
TEL 052-733-3709

名古屋シネマテークの
支配人平野勇治の遺稿集

平野勇治 著
安住恭子 発行

小さな映画館から
1650円 (税込)

ウニタ書店・ナゴヤキネマ・ノイで販売中

あなたにも
パリスチナ連帯

BDS JAPAN